

## 小平市議会定例会一般質問通告書

質問件名 全てのこどもが共に学び育つ、インクルーシブ教育を進めよう

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

2026年度から2030年度までの小平市特別支援教育総合推進計画(第二期)後期計画が策定されました。特別支援教育を進めることで、すべてのこどもたちが、一人一人に合った指導や必要な支援を受け、生きる力を身に付けることができる。そして本市が推進してきた特別支援教育の実践を活かしながら、インクルーシブな教育を推進していくことが必要と示されています。

生活者ネットワークは、共に学び共に育つインクルーシブ教育の実現を求め活動してきました。障がいの有無に関わらず、通常の学級に就学することを前提とし、希望や必要に応じて特別支援学級や特別支援教室、特別支援学校の選択肢があるべきです。しかし、いまだ合理的配慮や周囲の理解不足などの課題も多く、こどもが地域の顔の見える中で学び育つことを希望しつつも、その選択に躊躇し、切実に悩む保護者もいます。また、就学後に特別な支援が必要になるなどのケースもあります。文部科学省が2022年に実施した調査によれば、小・中学校の通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童・生徒の割合は、全体の約8.8%となっています。通常の学級における支援体制を充実するためには、こどもたち自身が多様性を知り、互いを認め合い、助け合い、共に学び育つ体験を重ねることが必要です。そして、その体験が一人一人の人格形成だけでなく、関わる大人たちに影響を与えることで共生社会の実現につながっていくのではないのでしょうか。

小平市の特別支援教育の更なる充実を目指し、インクルーシブ教育を推進するために以下質問します。

1. 小学校に入学する際、保育施設等と学校がこどもの様子や指導の工夫などの情報を共有し、切れ目のない支援につなげるための「こげら就学支援シート」について伺います。
  - ① 2025年度と2026年度のこげら就学支援シートの提出枚数をお示ください。
  - ② こげら就学支援シートの活用状況と課題について伺います。
2. 特別支援教育の支援体制の充実を図ることについて
  - ① すべての教職員が特別支援教育の目的や意義について理解し、専門性の向上を図ることが必要です。具体的にどのように取り組んでいくのかについてお示し下さい。
  - ② 支援を必要とするこどもたちの実態や課題を把握し、効果的な支援方法の検討と共通理解をするため設置される校内委員会に、学校経営協議会も必要に応じて参加し、開催することが必要と考えますが、見解を伺います。
  - ③ 「家庭とこどもの支援員」は、特別な支援が必要なこどもが不登校になった場合にも素早く対応して支援につなぐためにも有効と考えます。拡充することについて、見解を伺います。
  - ④ 新たに配置された医療的ケア児等コーディネーターについて、学校生活及び校外学習にも安心して参加するために、学校とどのように連携していくのかお示し下さい。
3. 多様な人材による支援体制として、計画に記載されている以外にも親の会や様々な居場所に関わる人等とも連携することが必要と考えます。見解を伺います。
4. 障がいに対する差別や偏見が生じないよう、相互理解を深めていくための交流および共同学習について、現状と課題についてお示し下さい。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2026年5月19日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 柴尾ひろみ

受付番号【           】

27	26	25	24